

にぎわいが生まれる
川西の実現

施策別 行政サービス成果表

分野別目標	02 にぎわいが生まれる川西の実現	市民とともに にめざす未 来像	・ 市民が歴史・文化財に興味を持ち親しんでいる ・ 市内での交流人口が増加し、にぎわいと愛着が生まれている
施策	04 歴史・観光		
小施策	08 歴史・観光		

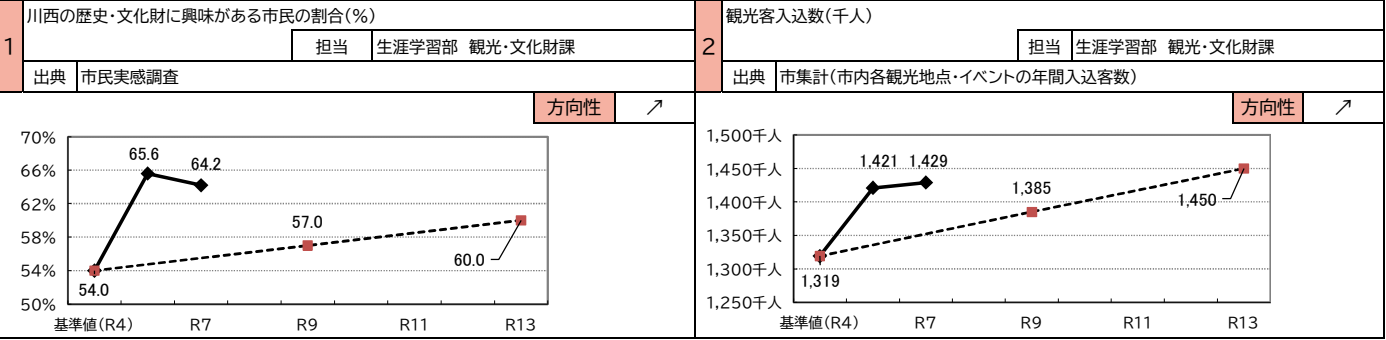
● 「市民とともにめざす未来像」及び「評価指標」を踏まえた分析

指標「川西の歴史・文化財に興味がある市民の割合」におけるR7年度実績値は、市制70周年事業としてイベント等が多かったR6年度と比べ1.4ポイント減少したものの基準値を10.2ポイント上回っている。旧平安家住宅の耐震補強改修等工事が完了した郷土館が年間を通じて開館したことや、市広報誌での加茂遺跡の特集などにより、市内の文化財を知ってもらう機会が増えたことが要因と考えられる。なお、興味がある市民の割合については、世代ごと、地域ごとに関心の差が大きくなっている。

指標「観光客入込数」におけるR7年度実績値は、R6年度と比較して微増である。増加要因では、水損事故及び空調機器の故障の影響で休館していたみつなかホールがR7年4月から再開したことで37千人の増となっており、減少要因では、猪名川花火大会が隔年開催となり、R7年度は非開催であったことから52千人の減となった。

今後も文化財に関して広く情報発信しつつ、文化財に関心の低い世代・地域にはより積極的に働きかける。また、組織再編で観光と文化財の所管が統合したことを活かし、両分野の連携を進める。併せて魅力的なイベントを引き続き実施し、ふるさと意識の醸成と交流人口の拡大を図る。

● 評価指標(目標値及び実績値の推移) ※グラフ内の点線(←----→):目標値、実線(←——→):実績値



● 事業・コスト一覧

事業名	R7年度				担当課
	事業費	職員人件費	減価償却費	合計	
国内交流事業	305千円	0千円	0千円	305千円	生涯学習部 文化・スポーツ課
観光推進事業	23,713千円	19,111千円	13,880千円	56,704千円	生涯学習部 観光・文化財課
イベント支援事業	10,773千円	17,292千円	0千円	28,065千円	生涯学習部 観光・文化財課
知明湖キャンプ場管理運営事業	18,878千円	0千円	1,395千円	20,273千円	生涯学習部 観光・文化財課
文化財事業	519,852千円	50,960千円	21,455千円	592,267千円	生涯学習部 観光・文化財課

コスト合計	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	合計
	513,460千円	697,614千円							1,211,074千円

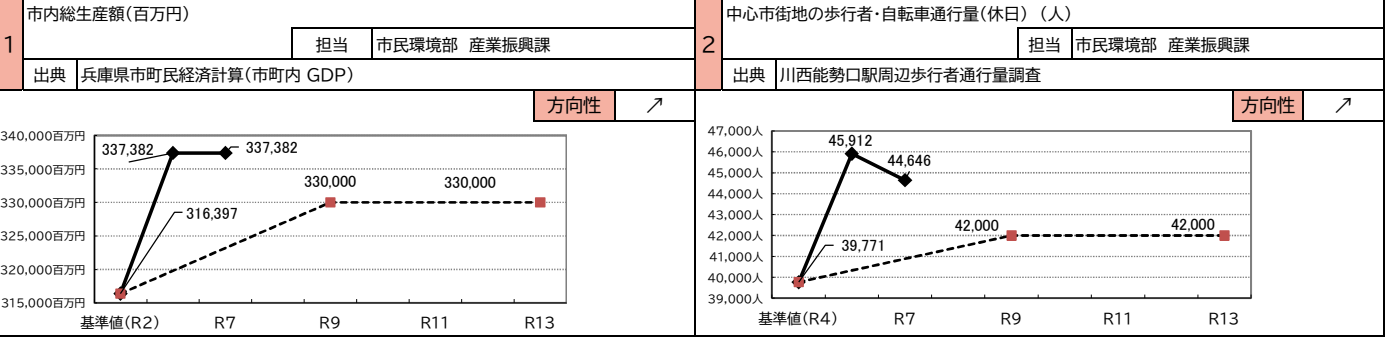
施策別 行政サービス成果表

分野別目標	02 にぎわいが生まれる川西の実現	市民とともに にめざす未 来像	・ 起業の支援を受けることができる環境が身近にあり、魅力的な新規事業者の事業所が多数ある ・ 地域の既存産業に活気があり、買い物等生活の利便性の向上により、身近な地域で豊かな暮らしが実現できている
施策	05 地域産業		
小施策	09 商工振興		

● 「市民とともにめざす未来像」及び「評価指標」を踏まえた分析

指標「市内総生産額」(グラフの数値は直近年度の速報値。R6年度の確報値はR9年度に公表予定)及び指標「中心市街地の歩行者・自転車通行量(休日)」は目標値を上回った。商工振興では、直近の経済センサス(R3年度)において、卸売・小売業やサービス業などの第3次産業が増加している。これまで実施してきた国の交付金を活用した経済対策や女性起業塾等による起業支援施策を体系的に実施することにより、地域産業に効果的に寄与したことも一因として考えられる。また、中心市街地活性化では、中心市街地の歩行者・自転車通行量(休日)の数値がR6年度と比べ減少しているものの、ペDESTリアンデッキ等の公共空間を活用したにぎわいづくりや、「LOCAL BUSINESS HUB かわにし」といったプレイヤー育成事業の実施のほか、アステ川西のびいぶう広場のリニューアル整備による効果により、まちのにぎわいの向上及び地域活性化につながっていると考えられる。今後は、R8年度制定の「未来につなぐ川西市中小企業振興条例」において、市内中小企業のさらなる振興を図るとともに、中心市街地活性化事業では、ビジネスパーソンがともに学び、交流する「LOCAL BUSINESS HUB かわにし」において、さらに実践的な学びを得られるアドバンスコースを新設し、ローカルに根ざしたビジネスの創出を推進することで、ビジネスコミュニティの形成及び活性化を図りながら、起業支援施策や中小企業振興施策と連携させることでにぎわいが生まれるまち川西の実現を図る。

● 評価指標(目標値及び実績値の推移) ※グラフ内の点線(←-----):目標値、実線(—————):実績値



● 事業・コスト一覧

事業名	R7年度				担当課
	事業費	職員人件費	減価償却費	合計	
商工振興事業	187,563千円	20,579千円	0千円	208,142千円	市民環境部 産業振興課
中小企業支援事業	130,457千円	8,646千円	0千円	139,103千円	市民環境部 産業振興課
中心市街地活性化推進事業	25,362千円	14,784千円	149千円	40,295千円	市民環境部 産業振興課

コスト合計	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	合計
	88,658千円	387,540千円							476,198千円

施策別 行政サービス成果表

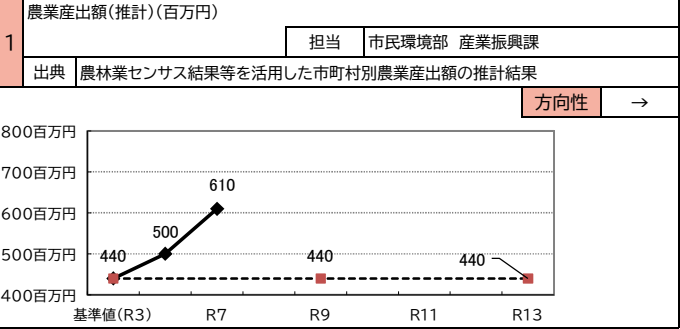
分野別目標	02 にぎわいが生まれる川西の実現	市民とともに にめざす未 来像	・ 市内の特産品が広く知られ、持続的に生産をされている ・ 市民が川西市産の農産物を積極的に食べている
施策	05 地域産業		
小施策	10 農業		

● 「市民とともにめざす未来像」及び「評価指標」を踏まえた分析

指標「農業産出額(推計)」におけるR7年度の数値は、R6年度と比較して向上しており、その主な要因として、近年の物価高騰による野菜や果実などにおける単価上昇が考えられる。一方で、早生桃やいちじくの即売会、兵庫県いちじく研究大会の開催や、直売所マップの登録数の増加などを通じて、川西産農産物の認知を促進したことなどがあげられる。さらに、持続可能な農業振興をめざし、久代北台井堰などの農業用施設の修繕や、有害鳥獣等による被害防止対策に取り組んだことも数値向上の一因と考えられる。

今後も、特産物の魅力を伝える即売会の実施に加え、直売所への「川西そだち」のロゴ入りのぼり旗の設置等を通じて、川西産農産物のPR活動を強化する。あわせて、地元生産者の要望に応じて老朽化した農業用施設の修繕・補助制度による支援、有害鳥獣等による被害防止対策を継続して行うことで営農意欲の減退を防ぎ、市民に安全・安心で新鮮な農作物を供給できるように取り組んでいく。

● 評価指標(目標値及び実績値の推移) ※グラフ内の点線(-----):目標値、実線(————):実績値



●事業・コスト一覧

事業名	R7年度				担当課
	事業費	職員人件費	減価償却費	合計	
農業振興事業	44,466千円	30,900千円	36,628千円	111,994千円	市民環境部 産業振興課

コスト合計	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	合計
	109,671千円	111,994千円							221,665千円

施策別 行政サービス成果表

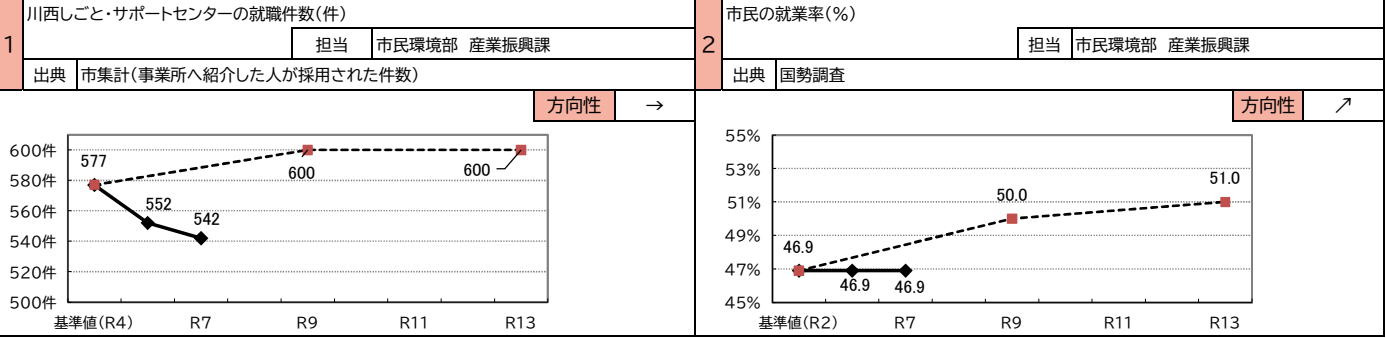
分野別目標	02 にぎわいが生まれる川西の実現	市民とともに めざす未来像	・希望する就労や働き方に関する情報が手軽に得られ、地域で働くことができる
施策	05 地域産業		
小施策	11 雇用就労・働く場の創出		

● 「市民とともにめざす未来像」及び「評価指標」を踏まえた分析

指標「川西しごと・サポートセンターの就職件数」がR6年度より10件減り、2年連続で基準値を下回った(評価指標2「市民の就業率」については、現時点で公表されている最新値であるR2年度の数値を記載)。コロナ禍を経て、オンラインサービスの充実等、求職活動環境の変化により、来所者数が減少している状況の中、職業紹介件数は増加しているが、就職件数は減少傾向である。

今後においても、就労決定までに時間を要するさまざまな課題を持つ若年者、子育て世代、障がい者などの就労困難者については、就労支援を行う各機関との連携を強化し、若者キャリアサポート川西の来所件数や相談件数を伸ばしていくことで、就職件数の増加に向けて取り組んでいく。また、若年者などの就労については、オンラインサービスや就職アプリなどによって個人レベルで情報が入手しやすくなる環境が整う一方で、就労困難者への対応が重要となるため、個々にあった働き方の支援や就労における機会提供など、伴走・課題解決型の支援の充実を図る。

● 評価指標(目標値及び実績値の推移) ※グラフ内の点線(-----):目標値、実線(————):実績値



● 事業・コスト一覧

事業名	R7年度				担当課
	事業費	職員人件費	減価償却費	合計	
就労支援事業	6,393千円	2,871千円	0千円	9,264千円	市民環境部 産業振興課
労働者支援事業	6,922千円	17,292千円	0千円	24,214千円	市民環境部 産業振興課

コスト合計	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	合計
	32,201千円	33,478千円							65,679千円

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	観光推進事業	所管部・課	生涯学習部 観光・文化財課	決算書頁	256
分野別目標	にぎわいが生まれる川西の実現				
施策	歴史・観光	小施策	歴史・観光		
市民とともにめざす未来像	・市民が歴史・文化財に興味を持ち親しんでいる ・市内での交流人口が増加し、にぎわいと愛着が生まれている				

2. 事業の目的

本市の歴史や芸術・文化の発信により観光を振興する

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	R7年度	R6年度	比較	財源	R7年度	R6年度	比較
総事業費	56,704	184,948	△ 128,244	一般財源	56,615	56,563	52
事業費	23,713	156,151	△ 132,438	国県支出金			
内 人件費	17,292	16,832	460	地方債		117,000	△ 117,000
正・再任用職員	1,819	1,671	148	特定財源(その他)	89	11,385	△ 11,296
任期付・会計年度任用職員	13,880	10,294	3,586	特定財源(その他)	使用料及び手数料	諸収入	
減価償却費				特定財源(その他)	R7年度の主な種類		
(参考)正・再任用職員数(人)	2	2					

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	観光推進事業	細事業事業費(千円)	2,940
--------	--------	------------	-------

R7年度の取組みと成果

主 な 取 組 み	① 川西市観光協会への運営支援(補助金)…450千円 ② 加盟協会負担金及び行事開催負担金にかかる支援(ひょうご北摂里山ライド含む)…1,368千円 ③ 大阪・関西万博における観光PR(ノバルティグッツ、ポスターなど)…189千円					
	指標名	単位	R6実績	R7実績	R8目標	R9目標 (総合計画中間年度)
	川西スマイルナビゲーターの活動実績	件	26	16	28	30
有効性 評価 指標						

①川西市観光協会への運営支援

- 観光の推進を図るため、川西市観光協会へ補助金を交付した。会員数:80名(R7年5月29日時点)。
- 川西スマイルナビゲーターの派遣などを通じて、市のイメージアップ、観光PRを実施した。
- 【活動内容】川西スマイルナビゲーターの派遣等:計16件(桃の即売会、ひょうご北摂魅力いっぱいフェアなど)

②観光振興・里山保全を実施する団体への加盟等

- 加盟協会等:計5件(「兵庫県阪神北地域ツーリズム振興協議会」・「北摂里山博物館運営協議会」・「2025年日本国際博覧会とともに、地域の未来社会を創造する首長連合」外2件)などへの参画を通じて、地域資源の活用や観光振興を図った。
- 行事開催負担金:「ひょうご北摂里山ライドの開催」(R7年10月26日)

③大阪・関西万博における観光PR

- R7年8月8日の「大阪・関西万博 市町の日」において観光PRを実施した。
- 兵庫県ブースの来場者数2,556人。
- 【実施内容】モルック体験、特産品の展示、ポスター掲示、ノバルティグッツ(源氏コースター)の配付など

④市とかわにしふるさと大使の活動実績など

- 市出身で、長年にわたり神戸ストークスで活躍されたプロバスケットボール選手の谷直樹さんをR8年2月に「かわにしふるさと大使」に任命。
- また、同日に川西市立多田中学校でバスケットボールクラブに所属する中学生35名たちとの交流会を行った。
- タレントや俳優として幅広く活躍されるかわにしふるさと大使の小田井涼平さんの等身大パネルを作成し、市役所1階に展示。



↑小田井涼平さんのパネル



↑万博会場でのモルック体験



↑谷直樹さんの任命式

<細事業2>		黒川まちづくり支援事業		細事業事業費(千円)		20,773	
R7年度の取組みと成果							
主な取組み		黒川里山センター管理・運営(指定管理者への管理委託料)・・・ 20,000千円					
有効性評価指標	指標名		単位	R6実績	R7実績	R8目標	R9目標 (総合計画中間年度)
	黒川里山センター 施設利用者延べ人数(イベント参加者含む)		人	7,915	12,244	12,500	10,000
	黒川里山センター 内貸室利用延べ人数		人	2,529	1,992	2,843	3,000
・黒川里山センター管理・運営 黒川の自然や景観を生かした里山保全や自然体験などを行う交流拠点、防災拠点などの機能を持つ施設として運営 指定管理者:NPO法人コクレオの森 委託事業 :黒川里山塾(計14回)、里山あそび(計4回)、みんな食堂(計4回)、森のとしよしつ(通年) その他(里山アトリエ・里山カフェなど) 休館日 :月曜日、火曜日及び祝日 開館時間:9時から17時 指定管理料:20,000,000円(R7年度) 施設利用者:12,244人(延べ人数。イベント参加者含む。内貸室利用延べ人数は1,992人) <R7年度の施設利用者数が増加した要因> 南北棟耐震改修工事の影響により利用不可であった南北棟の使用をR7年度に再開した。里山カフェや里山ショップの運営が再開し、これまで南北棟に足を運んでいた多くの方が施設を利用した。 ①森のとしよしつ(R6年度:0人→R7年度:3,084人) R7年度新設。図書やキッズスペースを設置した無料休憩スペース。 冬季は薪ストーブを使用するなどし、歴史ある南北棟を上手く活用した。 ②里山アトリエ(R6年度:69人→R7年度:1,525人) 自然素材や廃材を使い、自由に工作を行えるスペース。料金500円。 インスタグラムで魅力を紹介されたことをきっかけに参加者が大幅に増加。							
							←森のとしよしつ
							←里山アトリエ

5. 担当部長によるR7年度事業成果の自己評価及び今後の方向性

有効性にかかる自己評価 <有効性評価指標> <table><tr><td>R6年度より向上した</td><td>○</td></tr><tr><td>R6年度の水準に留まった</td><td></td></tr><tr><td>R6年度の水準を下回った</td><td></td></tr></table> 指標の結果をふまえた自己評価 ・川西スマイルナビゲーターの活動実績はR6年度より減少したが、活動目的である歴史、観光等を広く宣伝することはR6年度と同程度に達成できた。 ・黒川里山センターは、R6年度に南北棟耐震改修工事を行い、R7年4月から新棟と南北棟の一体的な運営を開始した。R7年度は森のとしよしつや里山アトリエで来場者が計4,540人増加するなど、施設利用者数はR9目標を上回る値となった。	R6年度より向上した	○	R6年度の水準に留まった		R6年度の水準を下回った		効率性にかかる自己評価 【黒川里山センターの効率性の高い運営について】 ・R7年度から一体的に運営している新棟と南北棟を、状況に応じて使い分けることで、より充実したイベントを実施できた。例として「里山アトリエ」は、工作の内容や季節などによって柔軟に新棟と南北棟を使い分けて実施した。 ・R7年度より黒川の魅力発信や交流の場、自由にふらっと立ち寄れて休憩できるスペースとして「森のとしよしつ」を新設した。今後もさらに、里山の魅力発信や担い手の交流の拠点となるよう努める。 【大阪・関西万博における観光PR】 ・当日は兵庫県ブースに2,556人が来場した。
R6年度より向上した	○						
R6年度の水準に留まった							
R6年度の水準を下回った							
有効性評価指標の向上を含めた事業の課題 【川西市観光協会のあり方について】 ・R5から市が進めている団体事務局の見直しの対象団体であり、市が事務局機能を担っていることが課題である。 【川西スマイルナビゲーターの活動について】 ・R7は活動実績が減少した。川西スマイルナビゲーターと連携し、市内の歴史、観光を広く宣伝し、市内外へ情報を発信することが課題である。 【黒川里山センターの利用について】 ・黒川里山センターで行っている委託事業において、リピーターも含め、より多くの新規の市民が参加できるようなイベントを行うことが課題である。	R8年度以降に向けた取組みの方向性 【川西市観光協会のあり方について】 ・R8年5月26日付で川西市観光協会は解散した。事業の一部が一般財団法人川西市まちづくり公社へ承継されたことで、市は事務局機能を担わないこととなるが、まちづくり公社と連携し観光推進を進める。 【川西スマイルナビゲーターの活動について】 ・従来の活動に加え、新たな発信の手段としてSNSの活用を検討する。組織再編により市文化財を観光資源としてとらえた発信を検討する。 【黒川里山センターの今後の活用について】 ・黒川を中心としたまちづくり方針に基づいた魅力的なイベントを引き続き実施する。また、R10以降の指定管理者選定に向けてR8にサウンディング調査を実施するなど、公募に向けて施設の活用方法について整理する。						

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	イベント支援事業	所管部・課	生涯学習部 観光・文化財課	決算書頁	256
分野別目標	にぎわいが生まれる川西の実現				
施策	歴史・観光	小施策	歴史・観光		
市民とともにめざす未来像	・市民が歴史・文化財に興味を持ち親しんでいる ・市内での交流人口が増加し、にぎわいと愛着が生まれている				

2. 事業の目的

イベントを開催し、「清和源氏発祥の地川西」など、本市について市内外にPRする

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		R7年度	R6年度	比較	財源		R7年度	R6年度	比較
内訳	総事業費	28,065	75,293	△ 47,228	一般財源		18,065	75,293	△ 57,228
	事業費	10,773	58,461	△ 47,688	国県支出金				
	人件費	17,292	16,832	460	地方債				
	減価償却費				特定財源(その他)	10,000			10,000
	(参考)正・再任用職員数(人)	2	2		特定財源(その他) R7年度の主な種類	繰入金			

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	イベント支援事業	細事業事業費(千円)	10,773
--------	----------	------------	--------

R7年度の取組みと成果

主な取組み	① 清和源氏まつり実行委員会及び川西市観光協会共催の清和源氏まつり開催支援(補助金)・・・10,750千円					
有効性評価指標	指標名	単位	R6実績	R7実績	R8目標	R9目標 (総合計画中間年度)
	観覧客数(清和源氏まつり)	人	21,000	21,000	23,000	24,000
	猪名川花火大会の開催年度における観覧客数	人	162,000	非開催	162,000	(※)162,000

(※)R9年度は非開催

【清和源氏まつり】

- 「清和源氏発祥の地 川西」を市内外へ更にPRするため、R7年4月6日に第61回清和源氏まつりを開催。
- ・大阪・関西万博開催に伴う警備員不足に対応するため、例年より1週間早く開催した。
- ・開催場所を多田地域から川西能勢口駅周辺の中心市街地に移して4回目の開催となった。
- ・懐古行列のスタート地点をアステ川西びいばう広場からキセラ川西せせらぎ公園に変更したことで、騎馬武者を含めた懐古行列の距離を延長した。
- ・馬が暴れることや、熱中症などによる離脱者もなく、全員が無事に参加することができた。
- ・音楽隊を往路と復路で交代する新たな試みを行った。(往路:ウィンドバンド 復路:和太鼓)トラブルなく無事に交代でき、観覧客に多様な音楽を楽しんでいただいた。
- ・キセラ川西せせらぎ公園や市役所南側での出店・キッチンカーや、公園ステージイベントも盛況であった。



↑巴御前



↑早稲田大阪高等学校
ウィンドバンド(往路)



↑和太鼓みのり(復路)



↑キセラ川西せせらぎ公園の様子

【猪名川花火大会】

隔年開催によりR7年度は開催しなかった

- 多くの来訪者に本市をPRするため、大阪府池田市との共催で昭和23年から始まった。
- ・開催経費の高騰のため、三者(猪名川花火大会開催委員会、川西市、池田市)合意のもとR7年度の開催を見送り、R8年度から隔年開催(2年に1回)へ移行した。



↑R6年(前回)の猪名川花火大会の様子

5. 担当部長によるR7年度事業成果の自己評価及び今後の方向性

有効性にかかる自己評価

<有効性評価指標>

R6年度より向上した	
R6年度の水準に留まった	○
R6年度の水準を下回った	

指標の結果をふまえた自己評価

・「清和源氏まつり」の観覧客数はR6年度と同じ21,000人が集まり、「清和源氏発祥の地 川西」を市内外へ広くPRできた。R7年度は懐古行列の先頭の音楽隊を往路は「ウィンドバンド」、復路は「和太鼓みのり」とし、懐古行列の雰囲気を変えることで、観客に楽しんでもらうよう取り組んだ。また、阪急電鉄の宝塚線、神戸線、京都線と清和源氏まつりの中吊りポスターを掲載し、PRを行った。

効率性にかかる自己評価

・R7年度の「清和源氏まつり」ではスタート地点であるギセラ川西せせらぎ公園から南下し、阪急川西能勢口駅で折り返す懐古行列を実施した。これと並行して、ギセラ川西せせらぎ公園をメイン会場とした各種イベントを同時開催したことで相乗効果が生まれ、イベント全体の盛り上げに寄与した。

・「猪名川花火大会」については、池田市など関係機関とあり方について協議し、開催経費高騰対策や熱中症対策強化の観点から、隔年開催、秋開催とした。また、運営の効率性を図るために民間企業等のオブザーバー導入に向け協議を行った。

有効性評価指標の向上を含めた事業の課題

【清和源氏まつり】

・清和源氏まつりでは、本市が「清和源氏発祥の地」であることを発信し、市の魅力をPRしている。開催場所を中心市街地としたことで、市全体のイベントとして定着しつつあるが、依然として市民や市外の方の認知度が低いことが課題である。

【猪名川花火大会】

・開催経費の負担が大きいことが課題である。また、観覧客数の増加を目指す一方で、混雑する会場の安全対策をより強化することが課題である。

R8年度以降に向けた取組みの方向性

・「清和源氏まつり」の運営に関し、イベント企画、キッチンカーの内容など、多岐にわたる事業内容の改善を図ってきた。今後も、「清和源氏発祥の地 川西」を効果的、効率的に周知するため、既存事業の見直しも含めて実行委員会内で議論を深める。また、参加者アンケートを実施することで外部の意見も取り入れるほか、清和源氏発祥の地である多田地域との連携についても引き続き検討する。

・「猪名川花火大会」は、開催経費の負担を軽減するため、民間活力の導入を視野に入れ、オブザーバーを導入する。オブザーバーは大会当日の状況把握及び運営改善の整理を実施し、R10年度の開催のあり方検討に繋げる。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	知明湖キャンプ場管理運営事業	所管部・課	生涯学習部 観光・文化財課	決算書頁	258
分野別目標	にぎわいが生まれる川西の実現				
施策	歴史・観光	小施策	歴史・観光		
市民とともにめざす未来像	・市民が歴史・文化財に興味を持ち親しんでいる ・市内での交流人口が増加し、にぎわいと愛着が生まれている				

2. 事業の目的

野外における活動を通じて、健全な心身を養うとともに、観光の推進に資する

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		R7年度	R6年度	比較	財源		R7年度	R6年度	比較
内訳	総事業費	20,273	22,920	△ 2,647	一般財源		20,273	22,920	△ 2,647
	事業費	18,878	21,525	△ 2,647	国県支出金				
	人件費				地方債				
	正・再任用職員 任期付・会計年度任用職員				特定財源(その他)				
	減価償却費	1,395	1,395		特定財源(その他) R7年度の主な種類				
(参考)正・再任用職員数(人)									

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	知明湖キャンプ場管理運営事業	細事業事業費(千円)	18,878
--------	----------------	------------	--------

R7年度の取組みと成果

主な取組み	① 知明湖キャンプ場・国崎せせらぎ広場の管理・運営(指定管理者への管理委託料)… 17,252千円 ② 知明湖キャンプ場・国崎せせらぎ広場の維持・管理(修繕料)… 776千円					
有効性評価指標	指標名	単位	R6実績	R7実績	R8目標	R9目標 (総合計画中間年度)
	知明湖キャンプ場利用者数	人	21,981	18,817	22,587	22,890

①指定管理者による知明湖キャンプ場の管理・運営
 指定管理者:株式会社トリムパーク
 R7年度指定管理料:17,252,090円
 (R7年度利用料金収入:14,047,520円)※利用料金は指定管理者の収入

○知明湖キャンプ場利用者数 (単位:人)

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
川西市	3,434	4,278	4,069	5,001	4,118
川西市以外	12,885	16,389	15,068	16,050	14,438
全額免除	585	846	1,016	930	261
合計	16,904	21,513	20,153	21,981	18,817



※全額免除は、市、市教育委員会が主催・共催する公的事業開催のための利用、障がい者の介助者が利用する際などが対象。

- ・青少年をはじめ市民がより身近に自然体験活動・野外活動を実施する機会を提供した。
- ・使用期間:通年営業
- ・休業日:火曜日 ※火曜日が祝日の場合は、翌日休業
※ゴールデンウィーク等は、火曜日も営業
- ・使用時間:日帰り/午前9時～午後5時
宿泊/初日の午後2時～午後4時までに入場、最終日の午後1時までに退場

②知明湖キャンプ場と国崎せせらぎ広場の一体的運用及び維持管理

R6年度から知明湖キャンプ場と国崎せせらぎ広場を一体化し、運用を開始している。両施設において、経年劣化や施設の老朽化等に伴い、施設の修繕箇所が増加傾向にある。R7年度は、指定管理者と締結している基本協定書に基づき、指定管理者と市が分担して修繕を行っている。

【市が実施した修繕内容・金額】

項目	金額
屋外トイレ排水設備等修繕	202千円
せせらぎエリア内水路・手すり等修繕	574千円
合計	776千円

【施工前】せせらぎエリア内水路・手すり等修繕



【施工後】せせらぎエリア内水路・手すり等修繕



5. 担当部長によるR7年度事業成果の自己評価及び今後の方向性

有効性にかかる自己評価

<有効性評価指標>

R6年度より向上した	
R6年度の水準に留まった	○
R6年度の水準を下回った	

指標の結果をふまえた自己評価

・昨今のキャンプブームの落ち着きや秋の繁忙期に降雨が続いたことが影響し、利用者数は減少した。R7年度はせせらぎ広場で実験的にペットサイトを導入したことで新たな知明湖キャンプ場の可能性を見出すことができた。新しい取組を複数行ったことで、利用者数は減少したが、利用者の満足度は向上した。

効率性にかかる自己評価

・知明湖キャンプ場と国崎せせらぎ広場を一体管理・運営することで効率的な施設管理を行っている。R7年度は国崎せせらぎ広場の水路や手すりを修繕し、利用者の利便性を高めることができた。

有効性評価指標の向上を含めた事業の課題

・国崎せせらぎ広場に隣接している一庫ダム湖の水位状況が変動することについて、管理運営や利用者の安全対策を講じた上で、国崎せせらぎ広場の活用方法を考えることが課題である。

・黒川地域全体の活性化等を図るという観点から、知明湖キャンプ場を周辺施設と一体的に事業展開していくことが課題である。

・場内の各施設について、老朽化しており、必要箇所の修繕するとともに、誰もが利用しやすい施設整備や改修を行うことが課題である。

R8年度以降に向けた取組みの方向性

・黒川里山センターの周辺施設や里山の魅力なども総合的に勘案し、黒川地域全体の活性化に資する取組みができないか研究を進めるとともに、R9年度の指定管理者公募の条件を検討する。

・老朽箇所の修繕については、指定管理者と協議の上、優先順位を決めて進める。また、改修時には障がい者や子育て世代の利便性を考慮する。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	文化財事業	所管部・課	生涯学習部 観光・文化財課	決算書頁	352
分野別目標	にぎわいが生まれる川西の実現				
施策	歴史・観光	小施策	歴史・観光		
市民とともにめざす未来像	・市民が歴史・文化財に興味を持ち親しんでいる ・市内での交流人口が増加し、にぎわいと愛着が生まれている				

2. 事業の目的

市内の文化財を貴重な歴史文化遺産として保護、顕彰、活用する

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		R7年度	R6年度	比較	財源		R7年度	R6年度	比較
内訳	総事業費	592,267	229,984	362,283	一般財源		105,963	94,402	11,561
	事業費	519,852	167,928	351,924	国県支出金		1,500	2,270	△ 770
	人件費	31,141	25,248	5,893	地方債		478,000	132,800	345,200
	正・再任用職員	31,141	25,248	5,893	特定財源(その他)		6,804	512	6,292
	任期付・会計年度任用職員	19,819	21,185	△ 1,366	特定財源(その他)	繰越金			
減価償却費		21,455	15,623	5,832	特定財源(その他)	使用料及び手数料			
(参考)正・再任用職員数(人)		4	3	1	R7年度の主な種類	諸収入			

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	文化財保存啓発事業	細事業事業費(千円)	503,157
--------	-----------	------------	---------

R7年度の取組みと成果

主 な 取 組 み	① 史跡加茂遺跡の公有化(土地購入費)・・・478,041千円 ② 栄根寺廃寺遺跡を史跡公園として、旧加茂幼稚園を文化財の収蔵場所として活用(土地借上料)・・・9,574千円 ③ 史跡加茂遺跡などの保存管理の推進(文化財保護用地の除草伐採等業務委託料)・・・1,623千円					
有効性 評価 指標	指標名	単位	R6実績	R7実績	R8目標	R9目標 (総合計画中間年度)
	文化財保存啓発事業(発掘調査現地説明会を除く)への参加者数	人	377	447	450	450

・国指定史跡に指定されている加茂遺跡の一部(9筆、約7,400㎡)の公有化を国庫補助を活用して実施した。
 ・埋蔵文化財(遺跡)について、各種開発に対応して発掘調査を実施するとともに、加茂遺跡において地元住民を対象に現地公開(R7年5月10日)を実施した。
 ・市文化財ボランティアガイドの会、加茂小コミュニティ協議会加茂遺跡クラブとの共催で、第11回加茂遺跡弥生のムラスタンプラリー(R7年11月24日)を開催した。R7年度は、包括連携協定企業の協力で「昔の火起こし、ミライの火起こし」ブースを設置したほか、キッチンカーによる飲食ブースを新たに設置した。
 ・文化財ボランティア養成講座全6回を開催し、市文化財ボランティアガイドの会の会員増加への支援をした。
 ・干支にちなみ源満仲公ゆかりの九頭の太蛇の伝説に関する文化財講座「九頭伝説考」(R7年9月6日)を開催した。
 ・R7年度は市職員向けに文化財に関する研修(R7年6月26日)を実施した。
 ・市文化財ボランティアガイドの会との共催で、満願寺ハイキング(R8年3月21日)を開催した。

(1) 発掘調査実施件数 (単位:件)

遺跡名	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
加茂遺跡	4	7	7	6	7
その他	13	12	15	19	16
合計件数	17	19	22	25	23
合計面積(㎡)	2,242	600	482	280	184

(2) 文化財保存啓発事業参加者数 (単位:人)

事業名	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
文化財講座	136	-	-	101	108
文化財ハイキング	16	23	11	41	19
加茂遺跡スタンプラリー	208	163	141	179	255
発掘調査現地説明会	-	-	248	125	60
文化財ボランティア養成講座	70	61	33	56	65
合 計	430	247	433	502	507



加茂遺跡の現地公開(第329次調査)



加茂遺跡スタンプラリー 飲食ブース

<細事業2>		文化財施設管理事業		細事業事業費(千円)		16,695	
R7年度の取組みと成果							
主な取組み		① 文化財施設の運営(会計年度任用職員報酬、同期末勤勉手当、同通勤費)・・・19,609千円 ② 文化財施設の管理(光熱水費、設備保守管理委託料、業務委託料)11,462千円 ③ 文化財施設の修繕(修繕料(建物)、修繕料(設備・工作物))・・・2,989千円					
有効性評価指標		指標名	単位	R6実績	R7実績	R8目標	R9目標 (総合計画中間年度)
		文化財施設(文化財資料館・郷土館・歴史民俗資料館)の来館者数	人	7,663	8,905	9,600	11,500
● 文化財資料館 ・加茂遺跡史跡追加指定にあわせて、史跡加茂遺跡に関する講座を実施した。 ・常設展示に加え企画展「加茂遺跡発掘調査速報展」を開催し、期間中に関連講座も実施した。 ・兵庫県立考古博物館と連携して、県下の銅鐸所蔵館をめぐるスタンプラリーを開催した。 ・R7年度は新たに市文化財ボランティアガイドの会と共催で、バックヤードツアーを開催した。 ・発掘調査による出土遺物の整理、収蔵、展示を行った。 ・小学校などによる団体見学への対応、小学校への出前授業(勾玉作り体験)などを実施した。 ・展示室およびロビーの空調設備修繕(R8年3月)を実施した。 ● 郷土館 ・国登録有形文化財の旧平安家住宅、旧平賀家住宅などの施設の管理、運営、公開を実施した。 ・旧平安家住宅やミュージアムスペースでの展示や講座、郷土館まつりなどの催しを開催した。 ・市美術協会や市いけばな協会と共催で企画展を開催した。 ・小学校などによる団体見学、はたちの記念等の前撮り写真撮影への対応を実施した。 ● 歴史民俗資料館 ・県指定重要有形民俗文化財の旧下家住宅、旧福田家住宅の管理、修繕、公開を行い、見学に対応した。  文化財資料館 夏休みこども考古学教室 (土器の接合・復元体験)							
(3) 来館者数				(単位:人)			
施設名		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
文化財資料館		2,709	2,688	3,511	3,921	3,439	
郷土館		4,553	5,827	3,330	2,835	4,339	
歴史民俗資料館		1,289	1,255	854	907	1,127	
合 計		8,551	9,770	7,695	7,663	8,905	
※R3年4月25日から5月11日まで臨時休館(3施設)、R5年10月3日からR6年10月11日まで土曜日、日曜日、祝日のみ開館(郷土館)。R8年3月4日から9日まで臨時休館(文化財資料館)。							
(4) 講座・催し参加者数				(単位:人)			
施設名		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
文化財資料館		502	581	676	658	763	
郷土館		467	640	296	247	518	
合 計		969	1,221	972	905	1,281	
※R3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため人数を制限して実施。小学校への出前授業等に参加者に含む。R5年10月からR6年10月まで耐震補強改修等工事のため未実施(郷土館)。							



文化財資料館
夏休みこども考古学教室
(土器の接合・復元体験)

5. 担当部長によるR7年度事業成果の自己評価及び今後の方向性

有効性にかかる自己評価 <有効性評価指標> <table border="1"> <tr> <td>R6年度より向上した</td><td>○</td></tr> <tr> <td>R6年度の水準に留まった</td><td></td></tr> <tr> <td>R6年度の水準を下回った</td><td></td></tr> </table> 指標の結果をふまえた自己評価 ・包括連携協定企業やキッチンカーの参加によって加茂遺跡スタンプラリーの参加者が増加し、文化財保存啓発事業の参加者が増加した。 ・郷土館が旧平安家住宅耐震補強改修等工事の完了に伴い年間を通じて開館したことで例年並みの来館者数に戻ったことや、歴史民俗資料館が関西5私鉄リレーウォークのポイントとなったことで、文化財施設全体で来館者数が増加した。	R6年度より向上した	○	R6年度の水準に留まった		R6年度の水準を下回った		効率性にかかる自己評価 ・栄根寺廃寺遺跡史跡公園について、土地所有者と協議を行い、借地方法が無償とする方針が定まった。 ・旧加茂幼稚園の園庭開放を行い、活用する方針が定まった。 ・加茂遺跡スタンプラリーでは、情報発信に地域情報サイトやSNSを活用したことで、インターネットを通じてイベント情報を獲得した人がR6年度の9.1%から21.6%に上昇した(参加者アンケート結果による)。 ・電力コストと環境負担の低減のために、文化財資料館、郷土館の照明器具をLED化した。
R6年度より向上した	○						
R6年度の水準に留まった							
R6年度の水準を下回った							
有効性評価指標の向上を含めた事業の課題 ・加茂遺跡の保存活用を推進するため史跡追加指定、公有化を進める必要がある(現在の公有化率は保存計画区域の20.2%)。 ・既に公有化した加茂遺跡文化財保護用地を十分に活用できていない。 ・文化財施設の来館者は初めての来館である傾向にあり、再訪してもらう方法を検討する必要がある。 ・文化財は他に代替することができないものであり、適切に維持管理していく必要があるが、計画的な修繕ができていない。	R8年度以降に向けた取組みの方向性 ・加茂遺跡の保存活用を推進するために、国や県の補助金を活用しながら、史跡加茂遺跡保存活用計画に沿って追加指定、公有化を進める。 ・公有化した加茂遺跡文化財保護用地の活用方法や暫定整備方法について検討する。 ・展示や講座などを工夫し、引き続き新たな来館者の開拓を進めるとともに、来館者の再訪を促す仕組み作りを検討する。 ・国や県の補助金を活用しながら、文化財を計画的に修繕し、適切に維持管理していくため、関係所管課と連携して修繕を計画するとともに、活用方法も検討する。						

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	商工振興事業	所管部・課	市民環境部 産業振興課	決算書頁	250
分野別目標	にぎわいが生まれる川西の実現				
施策	地域産業	小施策	商工振興		
市民とともにめざす未来像	・起業の支援を受けることができる環境が身近にあり、魅力的な新規事業者の事業所が多数ある ・地域の既存産業に活気があり、買い物等生活の利便性の向上により、身近な地域で豊かな暮らしが実現できている				

2. 事業の目的

商工業者の経営の安定と技術の改善・発展を支援する

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		R7年度	R6年度	比較	財源		R7年度	R6年度	比較
内 訳	総事業費	208,142	47,874	160,268	一般財源		34,813	43,549	△ 8,736
	事業費	187,563	19,837	167,726	国県支出金		172,482	4,226	168,256
	人件費	17,292	25,248	△ 7,956	地方債				
	正・再任用職員	17,292	25,248	△ 7,956	特定財源(その他)		847	99	748
	任期付・会計年度任用職員	3,287	2,789	498	特定財源(その他) R7年度の主な種類	寄附金			諸収入
(参考)正・再任用職員数(人)		2	3	△ 1		繰入金			

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	商工振興事業	細事業事業費(千円)	187,563
--------	--------	------------	---------

R7年度の取組みと成果

主な取組み	① 新規出店の支援(補助金)・・・2,139千円 ② 川西市商工会への支援(補助金)・・・11,451千円 ③ 未来につなぐ川西市中小企業振興条例の制定(委員報酬)・・・250千円 ④ レシートキャッシュバック事業(給付額)・・・136,665千円 ⑤ ガバメントクラウドファンディング(GCF)を活用した社会起業家支援事業(業務委託料等)・・・1,065千円
-------	--

有効性評価指標	指標名	単位	R6実績	R7実績	R8目標	R9目標 (総合計画中間年度)
	新規出店事業支援補助金による支援件数	件	8	6	8	10
	川西市商工会への事業者加入率	%	42.7	42.7	46.0	50.0
	ガバメントクラウドファンディングを活用した社会起業家支援事業支援事業者の事業立ち上げ数	件	3	5	8	11

①新規出店の支援

魅力的な店舗の出店を促進しにぎわいを創出するため、小売業・飲食業で出店する事業者に改装費、さらに、中心市街地に出店した事業者には、家賃に対する補助金を交付した。

所在地	業態	改装費	家賃
小戸1丁目	カフェ		154千円
小戸1丁目	カフェ		185千円
中央町	飲食業		300千円
石道	飲食店	500千円	
中央町	飲食店	500千円	
霞ヶ丘2丁目	カフェ	500千円	
合計		1,500千円	639千円

※補助対象者は、開店前、開店後6ヶ月及び18ヶ月を経過した時に、中小企業診断士等の専門家の経営指導を受けることができる制度となっているが、令和7年度は経営指導の利用実績はなし。

②川西市商工会への支援

市内商工業の活性化、経営安定のための経営改善普及事業等に取り組む川西市商工会を支援した。

■経営指導員による相談・指導・巡回指導 549件 ・窓口指導 760件 ・創業指導 135件

■専門指導員による個別相談指導(経営)68件 ■金融のあっせん 35件

③未来につなぐ川西市中小企業振興条例の制定

同条例の制定に向けて、産業ビジョン推進委員会に振興条例制定部会を設置し、部会を開催した。

■部会委員:学識経験者 2人、商工会及び商業団体関係者 3人、大規模小売店舗関係者 1人、金融機関 2人

■部会開催数 4回

④レシートキャッシュバック事業

市民生活を応援するため、国の「物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金」を活用し、物価高騰の影響を受けている市民に対し、給付金を支給した。

事業概要	川西市民が市内店舗で買い物をしたレシート及び領収書を1人につき15,000円（税込）以上集めて、一人一口で市に申請し、市が3,000円のキャッシュバックを行う。
申請対象者	川西市民
支給対象者	50,000人
申請方法及び申請期間	電子申請及び郵便申請 令和7年7月4日（金）～8月15日（金）
抽選	申請数が50,000人を超える場合は、抽選を実施

○応募及び支給実績

項目	人数
応募数	46,527
支給数	45,555

※972人は重複申請やレシート添付漏れなどによる未支給となった。

⑤ガバメントクラウドファンディング(GCF)を活用した社会起業家支援事業

商工会と連携し、市の地域課題の解決に向けたビジネスプランを募集し、審査で選定された事業者に対し、GCFキックオフ発表会を行うとともに、GCFを活用した資金調達を開始した。

○審査及び発表会経過

(件)

項目	実績値
応募件数	4
1次審査通過件数	3
2次審査通過件数	3

○2次審査通過プラン一覧

審査結果	事業者の商号 又は名称	事業計画名
最優秀賞	川西コミュニティラボ	かわにし空き家で社会貢献
特別賞	合同会社エデュセンス	こども自然大学 in 川西
優秀賞	(仮称) 夜鳴きノンアルバー	介護バーのマスターが施設に出現！ 夜鳴きノンアルバー

※最優秀賞には市から20万円、特別賞には商工会より5万円の賞金を授与

⑥女性起業サポート事業

起業を希望する女性に対し、起業を考え始めた段階から起業後のフォローまでを総合的に支援する「川西女性起業塾」を開催し、女性起業家の育成及び多様な働き方の醸成を図った。先輩起業家と話す機会を設ける等、起業家コミュニティの形成を図った。

■各セミナー参加者 ・入門 20人・ベーシック 7回延べ86人 ・ステップアップ 2回延べ23人

○受講者の起業家数の推移

	R3	R4	R5	R6	R7
累計	25件	31件	34件	36件	42件
単年度	11件	6件	3件	2件	6件

5. 担当部長によるR7年度事業成果の自己評価及び今後の方向性

有効性にかかる自己評価

<有効性評価指標>

R6年度より向上した	
R6年度の水準に留まった	○
R6年度の水準を下回った	

指標の結果をふまえた自己評価

・レシートキャッシュバック事業では、市民への物価高騰対策支援を図るとともに、市内中小店舗への消費促進につなげることができた。
・中小企業振興条例では、有識者、商業者、金融機関などからの意見を反映し、市内中小企業の振興を図るための条例を制定する取組を行った。
・ガバメントクラウドファンディング(GCF)では、応募件数が減少傾向にある。

有効性評価指標の向上を含めた事業の課題

・事業者の継続的な経営の安定のためには、事業者のニーズを捉えた施策を検討する必要があるが、本市の地域特性・地域課題を踏まえた事業者が直面している課題を、関係者間で十分な共有がなされていないことが課題である。

・ガバメントクラウドファンディング(GCF)では、地域課題の解決といったテーマ設定から応募者が限定的となっており、応募件数が集まりづらい状況にあることが課題である。

効率性にかかる自己評価

・レシートキャッシュバック事業については、独自の商品券等を発行せず既存のレシートを活用したため、印刷等の事務経費を抑制できた。

R8年度以降に向けた取組みの方向性

・未来につなぐ「川西市中小企業振興条例」における市と商工会の「協議の場」や産業ビジョン推進委員会等において、事業者や有識者、地域金融機関、若者等から意見や現場情報・課題、地域経済の状況を共有しながら、市内中小企業の振興につながる施策展開を検討していく。

・ガバメントクラウドファンディング(GCF)では、事業名称を変更し、対象事業テーマなどを幅広くするとともに、「支援者が関わりやすい制度設計」への見直しや「共感とストーリーを重視した事業発信」を強化することで、ビジネスプランの実現に向けた支援を実施していく。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	中小企業支援事業	所管部・課	市民環境部 産業振興課	決算書頁	250
分野別目標	にぎわいが生まれる川西の実現				
施策	地域産業	小施策	商工振興		
市民とともにめざす未来像	・起業の支援を受けることができる環境が身近にあり、魅力的な新規事業者の事業所が多数ある ・地域の既存産業に活気があり、買い物等生活の利便性の向上により、身近な地域で豊かな暮らしが実現できている				

2. 事業の目的

中小商工業者の経営基盤を確立し、地域商業を活性化する

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		R7年度	R6年度	比較	財源		R7年度	R6年度	比較
内訳	総事業費	139,103	11,696	127,407	一般財源		11,186	9,186	2,000
	事業費	130,457	3,280	127,177	国県支出金		126,415		126,415
	人件費	8,646	8,416	230	地方債				
	正・再任用職員				特定財源(その他)		1,502	2,510	△ 1,008
	任期付・会計年度任用職員				特定財源(その他) R7年度の主な種類		諸収入		
(参考)正・再任用職員数(人)		1	1						

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	中小企業支援事業	細事業事業費(千円)	130,457
--------	----------	------------	---------

R7年度の取組みと成果

主な取組み	①中小企業振興事業補助金等の交付(補助金)…733千円 ②原油等高騰対策中小企業支援金の支給(交付金)…122,573千円 ③中小企業融資あっせん事業(預託金)…1,502千円					
有効性評価指標	指標名	単位	R6実績	R7実績	R8目標	R9目標 (総合計画中間年度)
	見本市出展補助事業補助金 件数	件	2	1	2	4
	エコアクション21認証登録補助金 件数	件	2	1	2	4

①中小企業振興事業補助金等の交付(補助金)

- ・国・県などが主催・後援する見本市に出展する事業者に補助金を交付した。
- ・エコアクション21認証・登録制度を利用する事業者に対し、審査に要した費用の一部を補助した。
- ・兵庫県が承認した「経営革新計画に基づく事業」に係る経費の一部を補助した。

(実績)

補助事業名	件数	金額(千円)
見本市出展補助事業	1	90
エコアクション21認証・登録補助金	1	124
経営革新計画事業支援補助金	1	319
合計	3	533

②原油等高騰対策中小企業支援金の支給(交付金)

商工会と連携し、申請・受付システムを開発するとともに、原油等の価格高騰による影響を受ける中小企業者等に、燃料油(ガソリン、軽油、灯油、重油)、電力、ガスに係る経費を対象とした支援金を交付し、事業活動の継続支援を行った。

■支給件数・総額

	件数	金額(千円)
1期	699	52,900
2期	848	69,672

■業種別支給件数

	製造業	建設業	農業	卸小売業		サービス業										合計
				卸小売業	コンビニ・スーパー	飲食業	運輸業	不動産業	娯楽・浴場	美容業	教育	医療業	福祉業	その他サービス業		
1期	58	99	3	80	2	96	23	21	4	38	8	96	48	123	699	
2期	67	124	3	92	4	116	26	30	4	52	17	116	54	143	848	

③中小企業融資あっせん事業(預託金)

川西市中小企業振興資金融資あっせん制度は、市内中小企業者を育成、助長することを目的に、取扱金融機関及び兵庫県信用保証協会の協力を得て、原則、「低利」「固定」で各種事業資金の融資あっせんを行ってきた。

また、中小企業信用保険法に基づき、経営に支障をきたしている中小企業者への資金繰り支援として、資金調達の円滑化を図る制度に対して各種認定を行った。

○融資あっせん制度貸与残高 (単位:円)

貸付年度	件数	R6年度末残高	件数	R7年度末残高
H19	1	3,133,000	1	2,965,000
H20	1	1,556,000	1	1,484,000
H30	4	46,000	0	0
R1	4	508,400	0	0
合計	10	5,243,400	2	4,449,000

○中小企業信用保険法による認定件数(単位:件)

年度	SN 4号	SN 5号	6項	合計
R3	35	8	52	95
R4	59	34	0	93
R5	55	42	0	97
R6	11	33	0	44
R7	0	16	0	16

※R1年度で新規貸付を終了し、R2年度以降は取扱金融機関に対して貸付残高(9月末時点)の4分の1の額である1,502千円の預託のみを実施。

■認定条件

原則、売上高等が前年同月比で規定割合以上減少

■認定区分

4号：突発的災害（新型コロナウイルス感染症）

R2年3月2日より全都道府県を対象に指定

R6年6月30日をもって終了

5号：業務が悪化している業種

6項：危機関連保証（大規模な経済危機等への対応）

R2年3月13日～R3年12月31日

5. 担当部長によるR7年度事業成果の自己評価及び今後の方向性

有効性にかかる自己評価

<有効性評価指標>

R6年度より向上した	
R6年度の水準に留まった	○
R6年度の水準を下回った	

指標の結果をふまえた自己評価

・商工会と連携し、中小企業に対する補助制度の周知を行ってきたが、補助件数は横ばいの状況である。

・原油等高騰により、影響を受ける中小企業者等に対して支援金を交付し、事業活動の継続支援を行うことができた。

効率性にかかる自己評価

・原油等高騰対策中小企業支援金の支給において、申請受付システムを前回の課題を踏まえて改修することで、より効率的な事務運用を図ることができた。

有効性評価指標の向上を含めた事業の課題

・中小企業者の事業継続・事業発展を支援するにあたり、商工会との連携による事業実施や情報共有、役割分担が十分に機能していないことが課題である。

・中小企業者、個人事業者向けに事業活動を支援する目的で補助金を創設しているが、支援施策の認知度の向上や支援が個別支援に留まっているなど、補助事業全体が低調なことが課題である。

R8年度以降に向けた取組みの方向性

・本事業は、R8年度より商工振興事業と統合する。経済情勢も考慮しながら、中小事業者のニーズに合った施策を実施し、地域商業の活性化を支援していく。

・未来につなぐ川西市中小企業振興条例で明文化した市と商工会との協議の場の設置において、実行性の高い支援策を構築し、支援施策の体系化、事業者への支援制度の浸透、多様なニーズへ対応していく。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	中心市街地活性化推進事業	所管部・課	市民環境部 産業振興課	決算書頁	252
分野別目標	にぎわいが生まれる川西の実現				
施策	地域産業	小施策	商工振興		
市民とともにめざす未来像	・起業の支援を受けることができる環境が身近にあり、魅力的な新規事業者の事業所が多数ある ・地域の既存産業に活気があり、買い物等生活の利便性の向上により、身近な地域で豊かな暮らしが実現できている				

2. 事業の目的

中心市街地における都市機能の増進及び経済活力の向上を図る

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	R7年度	R6年度	比較	財源	R7年度	R6年度	比較
総事業費	40,295	29,088	11,207	一般財源	27,164	29,088	△ 1,924
事業費	25,362	14,470	10,892	国県支出金			
内 人件費	8,646	8,416	230	地方債			
正・再任用職員	8,646	8,416	230	特定財源(その他)	13,131		13,131
任期付・会計年度任用職員	6,138	6,053	85	特定財源(その他) R7年度の主な種類	繰入金	諸収入	
減価償却費	149	149					
(参考)正・再任用職員数(人)	1	1					

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	中心市街地活性化推進事業	細事業事業費(千円)	25,362
--------	--------------	------------	--------

R7年度の取組みと成果

主な取組み	① 川西市中心市街地活性化協議会への事業運営支援(補助金)・・・18,278千円 タウンマネージャー事業 4,599千円/LOCAL BUSINESS HUB かわにし 6,072千円/ まちなか滞留・実感調査 3,894千円/その他協議会運営事業 3,713千円 ② 第4期川西市中心市街地活性化基本計画の策定(業務委託料)・・・4,499千円					
有効性評価指標	指標名	単位	R6実績	R7実績	R8目標	R9目標 (総合計画中間年度)
	まちなか交流拠点マチノマの来室者数	人	3,905	4,451	4,682	5,071
	パデストリアンデッキでのイベント開催回数	回	26	28	37	40
	新規開業者数	件	38	72※	39	40

※大型商業施設のリニューアルによりR7実績が大幅に増加

- ① 川西市中心市街地活性化協議会への事業運営支援
川西市中心市街地活性化協議会に補助金を交付し、各事業や協議会運営の支援を実施。

- 中心市街地活性化活動拠点[まちなか交流拠点マチノマ]の運営
中心市街地の活動拠点として、地域の事業者・プレイヤーの活動・交流の活性化と情報発信を実施。
交流スペース予約件数 279件(R6年度より46件増)
《実施事業》

	目的・内容	R5年度	R6年度	R7年度
●相談会				
(1)起業相談会	起業希望者が、独自性を活かした自立経営ができるよう、相談支援を実施	28件	18件	13件
(2)なんでも相談会	中心市街地エリアでの活動についての相談支援を実施	29件	23件	29件
(3)マチノマ利用相談会	マチノマを利用したイベントや木箱の利用方法等の相談支援を実施	-	23件	6件
(4)中活プレイヤーによる相談会★	飲食や福祉、教育、イベントなど、幅広いジャンルについて4名のプレイヤーが相談支援	-	-	54件
●実施事業				
(1)展示・販売スペース	プレイヤーの起業支援、商品・事業PRのため、木箱内で商品販売や展示を実施	14者	11者	14者
(2)おやつミーティング	中心市街地で活動する事業者・プレイヤーの交流を目的に、トークイベントを実施	8回	5回(89名)	5回(74名)
(3)夜間開設 ヨルノマ	通常開設時間にマチノマへの来室が難しい層(ビジネスマンや学生)の来室促進と交流の場の創設	-	366名	299名
(4)不動産内覧会	出店希望者と中心市街地エリア内の空きテナントをマッチングする下地作り	-	17名	12名
(5)中活人物名鑑	中心市街地で活躍するプレイヤーの可視化、プレイヤーとの繋がりをもちたい人のきっかけ作り	-	10名	10名
(6)マチノマ部認定・交流会	マチノマの定期利用者の確保と活動の可視化、利用者同士の交流を促し新たなイベントの創出	-	7者	6者
(7)協議会実務担当者交流会	各団体との連携強化や協議会事業の認知向上・参画推進を目的に、実務担当者による意見交換	-	9者	8者
(8)マチルボ (R6は写真講座) ★	エリアの魅力的な情報を発信するプレイヤーの育成とコミュニティ化を目的に実施	-	17名	23名
(9)こども・若者向けワークショップ★	中心市街地のにぎわいに興味がある学生等向けにワークショップを実施	-	-	6名

★R7年度新規事業

- タウンマネージャー事業
事業者や地域団体との連携強化、事業の企画・運営、人材の発掘・育成などを担う
タウンマネージャーを登用し、中心市街地活性化の推進体制を構築した。

○ LOCAL BUSINESS HUB かわにし 2025(ビジネス交流スクール/参加人数109名)
川西市内外のビジネスパーソンが学び合う場を設計・運営し、ビジネススキルを持つイノベティブ人材の
発掘・育成を図り、アクティブなコミュニティを形成することを目的に実施。

	日程	場所	テーマ	参加人数
DAY1	8月7日(木)	アステ市民プラザ	福祉×小商いで未来を切り開くビジネスモデルを学ぼう	93
DAY2	8月28日(木)	川西市役所 7 階大会議室	ど素人がはじめた「映画をコミュニケーションツールに、地域をつなぐシアターカフェ」の魅力	85
DAY3	9月11日(木)	アステ市民プラザ	まちの価値を高めるクリエイティブな公共空間のあり方とは	74
DAY4	10月9日(木)	アステ市民プラザ	こてこでの不動産屋が考える不動産のくずし方	69
DAY5	11月13日(木)	アステ市民プラザ	空き家再生で地域課題を解決するリアルなノウハウ	63
DAY6	12月4日(木)	アステ市民プラザ	サークユラービジネスの未来を担う革新的プログラム運営	52
DAY7	1月8日(木)	アステ市民プラザ	「馬と暮らす」が体験できる「宿と馬 miru.house」の仕掛けを学ぶ	58
DAY8	1月22日(木)	川西市役所 7 階大会議室	ニュータウンで生まれる新しいコミュニティビジネスモデル	55
DAY9	2月12日(木)	川西市役所 7 階大会議室	「アナログハート、デジタルリーチ」クリエイター達とつくる地域と人をつなぐ新しいビジネスの方法	63
DAY10	2月26日(木)	アステ市民プラザ	編集・デザインから養鶏・農・猟まで、地域資源を編集して生業をつくる	71

参加延べ人数 683

○ まちなか滞留・実感調査

中心市街地の来街状況や回遊動向を把握するため歩行者・自転車通行量などの調査を実施。R7年度は、
第4期川西市中心市街地活性化基本計画の策定に向けて9地点で調査を行った(下記数値は継続の6地点分)。
平日:R7.10.17(金)(9時~20時) 晴れ 休日:R7.10.18(土)(9時~20時) 曇り一時雨

		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
平日	川西能勢口駅周辺4地点	36,867人	36,210人	36,519人	35,580人	40,632人
	キセラ川西地区周辺2地点	3,660人	4,089人	3,921人	4,731人	4,078人
休日	川西能勢口駅周辺4地点	39,855人	39,771人	40,551人	45,912人	44,646人
	キセラ川西地区周辺2地点	4,974人	5,091人	5,343人	4,005人	3,723人

※調査地点を、R2年度から変更し、キセラ川西地区周辺2地点を追加。

○ 公共空間の利活用

ベストリアンデッキなどの公共空間をイベント広場等として活用し、にぎわいの創出を図った。

	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	備考
ベストリアンデッキ(川西能勢口駅南北デッキ) にぎわい活用事業					
総活用回数	23回	36回	26回	28回	来街者の増加を図るため、道路管理者と連携してベストリアンデッキににぎわいイベントの開催及び適切なデッキ活用に向けた取組を実施。
民間事業者による活用回数	7回	24回	18回	23回	
活用民間事業者数	3者	7者	6者	9者	
藤ノ木さんかく広場運営事業					
利用日数	266日	215日	225日	194日	広場を日常的なにぎわいが生まれるイベント広場として活用し、エリアのさらなるにぎわい創出を図った。
出店店舗数	23店舗	26店舗	30店舗	33店舗	
市役所南広場キッチンカー出店					
利用日数	6回	24回	24回	24回	市役所南広場を活用したキッチンカー出店を24回開催し、公共空間を活用したにぎわいづくりを実施。
出店店舗数	9店舗	17店舗	17店舗	14店舗	

②第4期川西市中心市街地活性化基本計画の策定

「子どもが育つまちなか空間」や「まちづくりプレイヤーが生まれる環境」の創出を目標とした基本計画を策定し、令和8年3月17日に内閣総理大臣より認定を受けた。

5. 担当部長によるR7年度事業成果の自己評価及び今後の方向性

有効性にかかる自己評価

<有効性評価指標>

R6年度より向上した	○
R6年度の水準に留まった	
R6年度の水準を下回った	

指標の結果をふまえた自己評価

・まちなか交流拠点マチノマにおいて、各種相談会等の多様な事業を実施したことで、来室者数を546名(R6年度対比+14%程度)増加させることができた。
・「LOCAL BUSINESS HUB かわにし」の実施により、目標参加者数の50名を超える109名の参加者が集まり、新たなまちのプレイヤーの発掘につながった。

効率性にかかる自己評価

・まちなか交流拠点マチノマへの運営補助額を増加させることなく、来場者数を546名(R6年度対比+14%程度)増加させることができた。

有効性評価指標の向上を含めた事業の課題

・まちなか交流拠点マチノマの来室者数をさらに増加させるためには、施設や事業についての周知スキームが不十分であることが課題である。
・新たなプレイヤーの発掘・育成につなげていくために、「LOCAL BUSINESS HUB かわにし」を継続して実施するにあたり、多様なニーズに応えられる事業の構築が不十分であることが課題である。
・タウンマネージャー事業は、近年、一人体制で業務を担っており、負担が大きくなってきていることに加え、業務の継続性・安定性の確保が課題である。

R8年度以降に向けた取組みの方向性

・まちなか交流拠点マチノマの利用促進に向けて、LOCAL BUSINESS HUB かわにしやその他の中心市街地活性化事業を通して事務局やプレイヤーによるギャラリーかわにしの活用を引き続き検討していく。
・タウンマネージャーを中心に、まちなか交流拠点マチノマの活用や実践的な学びを得られるアドバンスコースを新設する「LOCAL BUSINESS HUB かわにし」の実施により、引き続きプレイヤーの発掘・育成を進めるとともに、タウンマネージャーの複数人体制による運用を検討する。
・新たなにぎわいの創出や、育成されたプレイヤーが中心市街地各所のにぎわい拠点で活動・活躍できる環境を整えるなど、中心市街地全体のにぎわいの底上げを図っていくため、第4期中心市街地活性化基本計画を推進していく。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	農業振興事業	所管部・課	市民環境部 産業振興課	決算書頁	246
分野別目標	にぎわいが生まれる川西の実現				
施策	地域産業	小施策	農業		
市民とともに めざす未来像	・市内の特産品が広く知られ、持続的に生産をされている ・市民が川西市産の農産物を積極的に食べている				

2. 事業の目的

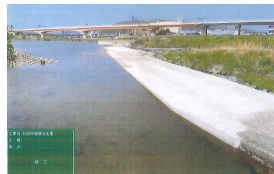
持続可能な農業を振興し、地産地消を推進する

3. コスト情報

事業コスト					財源				
		R7年度	R6年度	比較			R7年度	R6年度	比較
総事業費		111,994	109,671	2,323	一般財源		96,559	82,272	14,287
内 人 件 費	事業費	44,466	38,926	5,540	国県支出金		1,832	4,431	△ 2,599
	正・再任用職員	25,938	25,248	690	地方債		10,200	10,000	200
	任期付・会計年度任用職員	4,962	4,233	729	特定財源(その他)		3,403	12,968	△ 9,565
	減価償却費	36,628	41,264	△ 4,636	特定財源(その他) R7年度の主な種類		諸収入	使用料及び手数料	
(参考)正・再任用職員数(人)		3	3						

4. 事業目的達成のための手段と成果

＜細事業1＞		農業振興事業		細事業事業費(千円)		6,996	
R7年度の取組みと成果							
主な取組み		① 農業振興支援(補助金)・・・681千円 ② 有害鳥獣等捕獲(報償費)・・・1,286千円 ③ 担い手育成支援(保険料)・・・4千円					
有効性評価指標		指標名	単位	R6実績	R7実績	R8目標	R9目標 (総合計画中間年度)
		有害鳥獣用防護柵購入事業補助金の交付件数	件	9	9	10	15
		桃、いちじくの即売会の来場者数	人	918	730	960	1,000
		直売所マップの登録数(通算)	件	16	21	22	20
①農業振興直接支援 (目的)農業の健全な発達と振興及び地域の活性化を図るとともに、農林業及び経済の発展向上に寄与する。 ○特産物PRイベント(農林産物品評会・即売会) (事業実績) 交付対象者:川西市特産物イベント実行委員会							
				【即売会来場者数】 (単位:人)			
				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
		桃の品評即売会		感染症拡大防止のため中止	600	520	418
		いちじくの品評即売会		天候不良のため中止	感染症拡大防止のため中止	天候不良のため中止	500
							R7年度
							400
							330
○有害鳥獣用防護柵購入事業(R5年度～) 有害鳥獣用防護柵を購入する農業者に対して、農作物被害を防止するために設置する電気柵、ネット柵、トタン柵及びワイヤーメッシュ柵の設置に要する経費を補助する。							
				【防護柵 事業実績】			
				R5年度	R6年度	R7年度	
		交付件数		8	9	9	
				【捕獲実績】 (単位:頭)			
				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
		アライグマ		103	90	89	180
		ヌートリア		7	2	2	6
		イノシシ		30	28	48	34
		シカ		53	66	74	66
		合計		193	186	213	286
							R7年度
							89
							0
							31
							96
							216
②有害鳥獣等の捕獲頭数 (目的)猟友会に対して捕獲を依頼し、農作物等の鳥獣被害を防止する。							
③担い手の育成支援 農業担い手づくり事業(市・JA共催) (目的)矢間農園でJAによる農業講習会を開催し、修了後、新規就農につながるよう支援する。 ※R3年度より実施。参加者のうち、1名(R3年度からの累計では4名)が新規就農につながった。							
				【農業担い手づくり事業参加者数】 (単位:人)			
				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
		参加者数		9	6	10	10
							R7年度
							13

<細事業2>		農業用施設改良事業		細事業事業費(千円)		37,470																													
R7年度の取組みと成果																																			
主な取組み		① 農業用施設の改良等に対する支援(補助金)・・・2,155千円 ② 久代北台井堰補修工事(工事請負費)・・・20,589千円 ③ 加茂井堰にかかる費用(報償費、旅費、委託料、工事請負費)・・・7,360千円																																	
有効性評価指標		指標名	単位	R6実績	R7実績	R8目標	R9目標 (総合計画中間年度)																												
		ため池保全計画書整備率(要監視等と判定された特定ため池)	%	30.8	70.8	80.0	100.0																												
①農業用施設等の改良に対する支援 (目的)農業用施設等の改修に要する費用について、市が補助を行うことにより、農地の安全と農業生産力の向上を図る。 (補助制度)ア 農業用施設応急改良事業費補助金 補助割合1/2(上限10万円) イ 農業用施設改良事業費補助金 補助割合1/2(予算の範囲内)																																			
				<table><tr><td>補助制度</td><td>対象地区</td><td>工事内容</td><td>補助額(円)</td></tr><tr><td rowspan="4">ア</td><td>久代地区</td><td>側溝及び会所併設置工事</td><td>100,000</td></tr><tr><td>多田院地区</td><td>水路補修工事</td><td>100,000</td></tr><tr><td>久代地区</td><td>最明寺川ゴム堰修繕</td><td>100,000</td></tr><tr><td>山原地区</td><td>水路改修工事</td><td>100,000</td></tr><tr><td rowspan="2">イ</td><td>見野地区</td><td>水路修繕工事</td><td>145,200</td></tr><tr><td>東多田地区</td><td>ため池階段修繕工事</td><td>580,000</td></tr><tr><td colspan="3">合 計</td><td>1,125,200</td></tr></table>				補助制度	対象地区	工事内容	補助額(円)	ア	久代地区	側溝及び会所併設置工事	100,000	多田院地区	水路補修工事	100,000	久代地区	最明寺川ゴム堰修繕	100,000	山原地区	水路改修工事	100,000	イ	見野地区	水路修繕工事	145,200	東多田地区	ため池階段修繕工事	580,000	合 計			1,125,200
補助制度	対象地区	工事内容	補助額(円)																																
ア	久代地区	側溝及び会所併設置工事	100,000																																
	多田院地区	水路補修工事	100,000																																
	久代地区	最明寺川ゴム堰修繕	100,000																																
	山原地区	水路改修工事	100,000																																
イ	見野地区	水路修繕工事	145,200																																
	東多田地区	ため池階段修繕工事	580,000																																
合 計			1,125,200																																
②久代北台井堰補修工事 (事業内容) 久代北台井堰の老朽化により、農業用水の取水ができなくなったため、補修工事を行った。 事業費:40,508,600円 R6執行(前払金):19,919,680円 R7執行(繰越明許):20,588,920円				(施工前) 				(施工後) 																											
③加茂井堰の維持管理 保守管理委託、漏水対応、 修繕などを実施した。【事業実績】				<table><tr><td></td><td>業務内容</td><td>金額(円)</td></tr><tr><td>保守管理委託</td><td>本体等の保守点検業務など</td><td>3,897,300</td></tr><tr><td>漏水対応修繕</td><td>意見聴取や漏水箇所への止水</td><td>3,463,040</td></tr><tr><td colspan="2">合 計</td><td>7,360,340</td></tr></table> 					業務内容	金額(円)	保守管理委託	本体等の保守点検業務など	3,897,300	漏水対応修繕	意見聴取や漏水箇所への止水	3,463,040	合 計		7,360,340																
	業務内容	金額(円)																																	
保守管理委託	本体等の保守点検業務など	3,897,300																																	
漏水対応修繕	意見聴取や漏水箇所への止水	3,463,040																																	
合 計		7,360,340																																	

5. 担当部長によるR7年度事業成果の自己評価及び今後の方向性

有効性にかかる自己評価 <有効性評価指標> <table border="1"> <tr> <td>R6年度より向上した</td><td>○</td></tr> <tr> <td>R6年度の水準に留まった</td><td></td></tr> <tr> <td>R6年度の水準を下回った</td><td></td></tr> </table> 指標の結果をふまえた自己評価 ・有害鳥獣防護柵購入事業や有害鳥獣等の捕獲・処分活動を実施することにより、農作物被害の防止に努めた。 ・市内産農産物を販売する小売店に直売所マップへの登録を依頼し、登録店舗数の増加につながった。 ・管理者による保全計画書の作成によって、ため池の現状や緊急時の対応などについて把握でき、整備率が向上した。 ・加茂井堰下流側で発生した漏水に対し、止水工事や経過観察を行い、改善に努めた。	R6年度より向上した	○	R6年度の水準に留まった		R6年度の水準を下回った		効率性にかかる自己評価 ・農業者・JA・市で構成される特産物イベント実行委員会の主催により、桃・いちじくの品評即売会を開催した。会場の設営方法や販売方法などの見直しを実施した結果、運営に対するクレームがなくなり、職員の対応時間を削減することができた。 ・多面的機能支払交付金事業に取り組んでいる活動組織(西畦野農業推進チーム)に対して、補助金を交付した。補助率は国県75%、市は25%の負担をすることによって、活動組織が地域内で実施した農業用施設の維持管理や修繕、獣害対策、遊休農地の保全など多岐にわたる活動を支援することができた。
R6年度より向上した	○						
R6年度の水準に留まった							
R6年度の水準を下回った							
有効性評価指標の向上を含めた事業の課題 ・農作物への被害だけでなく、就農意欲や営農意欲の減退にもつながるため、有害鳥獣による農業被害の増大が課題である。また、有害鳥獣の捕獲・処分活動にかかる費用の高騰など猟友会への負担が増加するとともに、同会員の高齢化や担い手不足が課題である。 ・桃やいちじくの多くは生産緑地で生産されており、生産緑地の新規指定から30年の期間満了を迎えたことを契機に農地転用が進み、農地面積の減少が課題である。一方で、市街化調整区域では、生産者の高齢化や担い手不足による耕作放棄地の増加が課題である。 ・加茂井堰の竣工から20年以上が経過し、老朽化や不具合が生じていることに伴い、維持管理経費が増加していることが課題である。	R8年度以降に向けた取組みの方向性 ・猟友会等の協力を得て、有害鳥獣の捕獲を進めることに加えて、新たな担い手を確保するよう、さらに有効な対策を検討する。 ・農業担い手づくり事業や市民ファーマー制度などを活用し、担い手の確保に努めるとともに、就農意欲や営農意欲の向上に資するよう、新たな支援策を検討する。 ・加茂井堰の更新について、調査を実施し、様々な取水方法を検討し、さらに維持管理にかかる費用の分担などについて、関係機関や水利組合と協議し、方向性を検討する。						

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	就労支援事業	所管部・課	市民環境部 産業振興課	決算書頁	240
分野別目標	にぎわいが生まれる川西の実現				
施策	地域産業	小施策	雇用就労・働く場の創出		
市民とともにめざす未来像	・希望する就労や働き方に関する情報が手軽に得られ、地域で働くことができる				

2. 事業の目的

職業紹介や求人情報の提供による安定した雇用機会を提供する

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト		R7年度	R6年度	比較	財源	R7年度	R6年度	比較
内訳	総事業費	9,264	8,207	1,057	一般財源	5,969	5,281	688
	事業費	6,393	5,637	756	国県支出金	371		371
	人件費				地方債			
	正・再任用職員				特定財源(その他)	2,924	2,926	△2
	任期付・会計年度任用職員	2,871	2,570	301	特定財源(その他) R7年度の主な種類	財産収入	諸収入	
(参考)正・再任用職員数(人)								

4. 事業目的達成のための手段と成果

＜細事業1＞		就労支援事業		細事業事業費(千円)		6,393	
R7年度の取組みと成果							
主な取組み		①川西しごと・サポートセンター及び若者キャリアサポート川西の運営(報酬等)…2,872千円 ②川西しごと・サポートセンターの管理(負担金)…2,401千円 ③川西市障がい者トライアル雇用奨励金・継続雇用奨励金(補助金)…475千円 ④シュウカツトレキャン(委託費等)…269千円					
有効性評価指標	指標名		単位	R6実績	R7実績	R8目標	R9目標 (総合計画中間年度)
	若者キャリアサポート川西相談件数		件	529	755	780	600
	就職支援セミナー参加者数		人	22	55	58	60
	障がい者継続雇用奨励金件数		件	1	2	2	3
【川西市雇用対策協定に基づく事業実施及び労働局との連携】 「川西市雇用対策協定」に基づき、作業部会及び運営協議会を設置し、事業の実施状況や課題を共有することで、兵庫労働局との連携強化と雇用・労働環境の改善などに取り組んだ。また、共有した課題や当年度の事業実績を反映し、事業計画(R8年度)を策定した。 ■作業部会 R7年8月20日、R8年2月4日 ■運営協議会 R8年3月18日							
①川西しごと・サポートセンターの運営 兵庫労働局との一体的実施事業として川西しごと・サポートセンターを設置し、職業相談・紹介とセミナー開催等を行い求職者を支援した。情報提供型の支援から就労困難者への伴走・課題解決型の支援に移行し、セミナーの追加実施や企業向け就職支援セミナー・相談会を実施した。							
○川西市の役割 ■市の各種支援制度の情報提供及び相談							

②若者キャリアサポート川西の運営

同センター内に兵庫労働局事業の「若者キャリアサポート川西」を併設し、概ね40歳未満を対象に職業相談とセミナー、面接会を行い求職者を支援した。

(実績) 若者キャリアサポート川西 (人、件)

	R3	R4	R5	R6	R7
相談来所者数	569	173	485	529	755
新規求職者数	109	80	128	244	188
就職件数	87	18	25	82	66

○若者サポート事業

- 相談窓口の設置
- キャリア形成支援のための相談(週4日)
- 社労士による労働条件、生活支援相談(週1日)

○就職支援セミナー(各年間1回実施)

- 迷わない求職活動スタートガイド(7月31日)
- 職業興味検査&性格検査(9月16日)
- 働くためのストレス対策(10月28日)
- 自己分析セミナー(11月27日)
- 「会ってみたい!」と思わせる応募書類の作り方(1月15日)
- 採用担当者の心に響く面接とは?すぐに実践!面接対策(2月12日)

(参加者数)

	R3	R4	R5	R6	R7
合同就職会in川西	29	10	49	42	72
就職支援セミナー	21	8	31	22	55
上乗せ就職支援セミナー	—	—	37	—	—
キャリアカウンセリング	433	171	483	495	529
労働・生活相談	57	4	49	30	37
合計	540	193	649	589	693

○合同就職面接会(R8年2月19日)

参加事業所数:15社
参加求職者:72名 応募件数:35件
内定数:13件(内定率:37.1%)
採用数:11名(採用率:31.4%)

(件、円)

		R4	R5	R6	R7
トライアル雇用	交付決定件数	2	1	3	2
	交付金額	120,000	60,000	180,000	115,000
継続雇用	交付決定件数	0	0	1	2
	交付金額	0	0	240,000	360,000

③川西市障がい者トライアル雇用奨励金・継続雇用奨励金

事業者が障がい者雇用への理解を深め、障がい者の雇用機会の拡大及び定着を図ることを目的に、障がい者を試行雇用(トライアル雇用)し、継続雇用する事業主に奨励金を支給した。

④シューカツトレキャン

若年就労希望者のキャリアイメージを整理した上で、市内企業等での見学・職場体験を行うことで、市内企業で働くイメージを明確化し、働き手の市内企業への定着を支援する。また、本事業をキャリア教育を含めて実施することで、教育も含めた就労支援ネットワークを構築する。加えて、市内および近隣市の若年層の就労希望者に市内企業の魅力をPRし、市内企業と若年就労希望者をマッチングすることで、市内企業の若年層の働き手の確保を支援した。

- 参加者数 8人
- 参加企業者数 9社

5. 担当部長によるR7年度事業成果の自己評価及び今後の方向性

有効性にかかる自己評価

<有効性評価指標>

R6年度より向上した	○
R6年度の水準に留まった	
R6年度の水準を下回った	

指標の結果をふまえた自己評価

・川西しごと・サポートセンターの支援形式を、就労困難者に対する伴走・課題解決型支援に移行していったことにより、キャリアカウンセリング等の相談業務の数値が増加した。

・川西市障がい者トライアル雇用奨励金・継続雇用奨励金において、障害者雇用・就労支援センター『みらくる』との協力により、継続雇用奨励金が増となった。

効率性にかかる自己評価

・川西市しごと・サポートセンターの来所者数を増やすため、就労支援を行う各機関との連携を強化したが、働き方の多様化やオンラインサービスの普及による求職活動環境の変化により効果が得られず、結果としてR6年度水準に留まった。

有効性評価指標の向上を含めた事業の課題

・川西しごと・サポートセンターにおいては、セミナーの充実や個別相談対応の強化、兵庫労働局等の関係機関との連携促進に取り組んできたが、働き方の多様化やオンラインサービスの普及による求職活動環境の変化は引き続き進んでおり、来所者数の回復には至っていない。対面相談等の利用者数は一定の増加傾向にあるものの、就職件数の目標達成に向けては、個々の求職者の状況に応じたより実効性の高い支援への転換が進んでいないことが課題である。

・川西市障がい者トライアル雇用奨励金・継続雇用奨励金においては、連携協力効果が見え始めたものの、微増の申請件数となっている。事業者への同制度の浸透が、まだ十分に図られていないことが課題である。

R8年度以降に向けた取組みの方向性

・R7年度の取組みを踏まえ、引き続きセミナーの充実や個別相談の質の向上を図るとともに、就職後の定着支援を含めた伴走・課題解決型支援をさらに強化していく。また、若年者をはじめ多様な求職者が自らに合った働き方を実現できるよう、兵庫労働局及び各就労支援機関との連携をより一層深め、就職件数の増加と就労の定着につながる支援体制の充実を図っていく。

・川西市障がい者トライアル雇用奨励金・継続雇用奨励金においては、障がい者の働き方の支援として、障がい者雇用・就労支援センター『みらくる』等と引き続き連携協力をするとともに、商工会とも連携し、事業者への同制度の浸透を図ることで、さらなる申請数の増加をめざす。

事業別行政サービス成果表

1. 事業名等

事業名	労働者支援事業	所管部・課	市民環境部 産業振興課	決算書頁	240
分野別目標	にぎわいが生まれる川西の実現				
施策	地域産業	小施策	雇用就労・働く場の創出		
市民とともにめざす未来像	・希望する就労や働き方に関する情報が手軽に得られ、地域で働くことができる				

2. 事業の目的

勤労者及び就労希望者を支援する

3. コスト情報

(単位:千円)

事業コスト	R7年度	R6年度	比較	財源	R7年度	R6年度	比較
総事業費	24,214	23,994	220	一般財源	23,796	21,644	2,152
事業費	6,922	7,162	△ 240	国県支出金	308	2,040	△ 1,732
内 人件費	17,292	16,832	460	地方債			
正・再任用職員				特定財源(その他)	110	310	△ 200
任期付・会計年度任用職員				特定財源(その他)	諸収入		
減価償却費				R7年度の主な種類			
(参考)正・再任用職員数(人)	2	2					

4. 事業目的達成のための手段と成果

<細事業1>	労働者支援事業	細事業事業費(千円)	6,922
--------	---------	------------	-------

R7年度の取組みと成果

主な取組み	①多様な働き方推進事業(業務委託料)…616千円 ②若年者就労体験支援事業(業務委託料)…4,999千円 ③キャリアデザインセミナー(講師謝礼)…100千円 ④キャリアカウンセリング・労働相談(報償費・役務費)…711千円					
有効性評価指標	指標名	単位	R6実績	R7実績	R8目標	R9目標 (総合計画中間年度)
	キャリアカウンセリングの相談回数	回	104	119	120	125
	企業人権連絡会議におけるセミナー回数	回	2	2	2	2
	後追い調査(相談やセミナー受講者に対する一定期間後の調査)による就労者数	人	11	19	22	20

①多様な働き方推進事業

多様な働き方を啓発する動画の作成、いろんな働き方を知り、自分に合った働き方を見つけるセミナー、多様な働き方を実践している先輩から話を聞ける座談会及び悩みを共有する相談会を開催し、それぞれの生活状況やスキルに沿った多様な働き方の実現に向けた支援を行った。

■入門セミナー：開催回数 2回 参加者数 延べ30人
 ■実践セミナー：開催回数 3回 参加者数 延べ24人

■交流会：開催回数 1回 参加者数 4人

(実績) 若年者就労体験支援事業

項目	R3	R4	R5	R6	R7
体験者数	19	14	7	13	7
就職決定者	11	9	5	3	5
(うち正社員)	5	5	3	1	2
(うち非正規社員)	6	4	2	2	3
決定率	57.9%	64.3%	71.4%	23.1%	71.4%
(うち正社員決定率)	45.5%	55.6%	60.0%	33.3%	40.0%

②若年者就労体験支援事業

市内在住の49歳以下の未就職者を対象に、就労を体験することで、円滑な就職に結びつけるプログラムを提供した。

③キャリアデザインセミナー

多様な働き方の推進及び再就職支援を目的としたセミナーを、男女共同参画センターと共同開催した。(4回開催、77人参加)
 また、ハローワーク職業相談部門マザーズコーナーと子育て期の女性等を対象とし再就職をめざすことを目的としたセミナーを共同開催した。(2回開催、34人参加)

○キャリアデザインセミナー

(参加者数)

セミナー【共催：男女共同参画センター】	
ライフシフト！自分らしく生きる・働く	16
再就職への第一歩～出産・育児後のリスタート・これからの働き方をデザインしよう～	15
職場でのアサーティブなコミュニケーション	23
働き方が変わる！制度理解の第一歩～社会保険・税金・扶養の“？”を解消しよう～	23

セミナー【マザーズコーナー】	
子育てと両立！お仕事探しのはじめかた	20
第一印象で心をつかむ メイク&ビジネスマナー	14

④キャリアカウンセリング、労働相談

専門カウンセラーによるキャリアカウンセリングと
労使間トラブルの解決の場として労働相談を実施した。

(実績) キャリアカウンセリング・労働相談の利用者数

項目	R3	R4	R5	R6	R7
キャリアカウンセリング	50(55)	27(32)	51(60)	69(104)	90(119)
労働相談	20(21)	25(26)	19(19)	19(19)	21(22)

※ () 内は延べ相談回数

○産業保健推進事業

法定健康診断の機会の確保及び事業者が行う労働者の健康管理等を補助することにより、従業員50人未満の市内事業所における労働者の安全と健康を確保し、快適な作業環境の形成促進を図った。

川西市中小企業勤労者福祉サービスセンターが令和4年度末で廃止したことを受け、同サービスセンター事業として実施していた健康診断の受け皿としても機能した。

受診者数 154名(28事業所)

○川西市企業人権連絡会議

企業の人権啓発を推進する団体として存続し、市が実施する講演会のテーマや講師の決定等について助言・要望を行い、市と企業が協力し、人権啓発に取り組んでいる。

○企業人権連絡会議

(参加者数)

講演会	
カスタマーハラスメントなんて怖くない!	26
合理的配慮の提供とは～解決策はひとつとは限らない、互いに工夫を積み重ねよう～	17

○勤労者住宅資金融資あっせん制度

昭和53年に勤労者の持家促進を支援するための住宅融資をあっせん制度として発足し、平成15年に新規貸付を終了し、令和7年度末には返済が終了した。

○勤労者住宅融資あっせん制度貸与残高

(単位:円)

貸付年度	件数	R6年度末残高	件数	R7年度末残高
H12	2	561,619	0	0

※取扱い金融機関に対して、R6年度末の貸付残高の5分の1の額である112千円の預託を実施。

5. 担当部長によるR7年度事業成果の自己評価及び今後の方向性

有効性にかかる自己評価

<有効性評価指標>

R6年度より向上した	○
R6年度の水準に留まった	
R6年度の水準を下回った	

指標の結果をふまえた自己評価

・キャリアカウンセリングは、チラシの刷新、他の支援機関との連携の強化により利用者数、延べ相談回数ともに増加している。

効率性にかかる自己評価

・キャリアカウンセリングにおいて、体制の充実を図るために、1日4枠を3枠とし、相談時間を延長したことで、相談件数が増加した。

有効性評価指標の向上を含めた事業の課題

・若年者就労体験支援事業では、長期的・継続的な支援を必要とする若者の就職実現に向け取り組んできたが、体験者数に占める就職決定者数の割合は一定水準を維持しているものの、R5年度以降は体験者数全体が減少傾向にあることから、事業の抜本的な手法見直しを図れていないことが課題である。

R8年度以降に向けた取組みの方向性

・若年者就労体験支援事業においては、働き方の多様化や就職困難者が置かれている状況を一層踏まえ、現状よりも効果的な事業手法を検討するとともに、現在の支援ニーズに即したより実効性の高い支援を展開していく。

